



国際教育交流で高校生に話しかける留学生

国際教育交流で高校生に話しかける留学生
なかり、異文化とともに体験する心温まる機会となった。

「高校」と異文化間インタラクティブなプロジェクト」
実習を行った。最後は、ホームルーム見学、茶道部の茶会に参
加し、和紙による着せ作りを高校生から教えてもらい日本文化
体験をし、剣道部の練習も見学した。留学生には日本の高校を
見学する貴重な機会となるように、留学生と地域の高校生が
3部は、1年生の国際コース31人の授業で、留学生による
交流する姿がみられた。

第1部は、広高校2年生の総合探求でのSDG&研究につ
いて高校生から留学生に質問する挑戦をした。第2部では体育
館で1年生192人と留学生の国
際教育交流を行った。留学生の自
己紹介のスピーチやクイズ、ゲー
ムで、会場には笑顔があふれ、大盛り上がりとなった。
ドイツの学生の「国際化とは違いを受け入れることです」か
ら始まったスピーチ、留学生の国の言葉で「はじめまして」を
皆で言ってみる体験など、留学生と高校生徒が積極的に話しか
け、交流する姿がみられた。



留学生とSDGsのテーマ
カシヨンの留学生

7月13日から16日にはサンプアロで、今年20周年を迎え
た南米最大アニメ見本市であるアニメフェスティバルに初めて参加
した。日本からは5大学が参加し、相談ブースにて現地学生と
留学相談を行った。初日には大学紹介とともに、漫画研究家で
あるフランスコ佐藤氏を招いて日本の漫画研究紹介も行われ、
筑波大からは養賢教授がアドバイザーでの漫画研究のプレゼン
テーションを実施した。
来場者には、将来日本留学を考えている若い世代が多く理
系分野に関心のある学生が多かった。ジャンル・フェスティバル
と比較して芸術系などに関心のある学生も多く同じサンプア
ロでの開催だったが、連つ層にアプロチできた。
アニメフェスティバルの発表によるとアニメフェスティバルの来場者数
は約に万人で、留学相談ブースへの来場者は約1118人を
数え、二つでも多くの若者に日本留学の魅力を伝えることがで
きた。
相談ブース前で記念撮影する参加者

アを開催していただきたいと
いった多数の意見などが寄せら
る

留学フェアでの資料配布
・相談ブース